

修了生からの
お便り



最高に充実した 日々でした

大学院を修了して丸一年。あの日々を総括すると、一番は様々な方々との「出会い」であつたかと思えます。

多くの先生方に教えていただき、研究はもちろんのこと、何事に対しても熱心で学生想いな先生方ばかりでした。講義・演習では、いい大人が年甲斐もなくワクワクしてしまうような授業を展開してくださいました。教わることのすべてが面白く、眠る時間が惜しいと思う程でした。自分の専門知識・技術が急に深まるのを実感し、教わる喜びを噛みしめる毎日でした。先生方は専門的な内容であっても、とても分かりやすく教えてくださいました。その指導法自体が勉強となるもので、生徒を惹きつける授業、がどのようなものか、教わりました。先生方とご一緒させていただく時間の全てが貴重なものでした。

他の院生との交流も、重要でした。様々な分野を追究してきた者たちが、同じ院生研究室（院生室）で一緒に過ごしているのです。院生室で交流しているだけで、

これまで知りもしなかった分野・興味深い内容に、どんどんと出逢うのです。研究の幅も広がりました。広い視野を養うこととなりました。

もう一つ、ありがたかったのは研究に没頭できる環境（電気実験室）を使用させていただけましたこと。朝5時頃には実験室へ。山のように存在する「やりたいこと」からその日の計画を立て、研究に励みます。講義や食事時になると仲間が誘いに来てくれるので、時間を気にする必要はありません。疲れたな、と思ったら院生室で気分転換。深夜、眠くなったら宿へ帰る、という毎日です。日に一度、何気に立ち寄る先生と会話させていただけるのも最高でした。

上越教育大学大学院で学んだ日々は、本当に貴重なものでした。教わる喜びとありがたさを実感すると同時に、自分がどのような教師を目指せばよいか、学び考えることができました。この経験を宝に、今も毎日を充実させています。

大学院での学びを生かして指導した生徒の作品が、全日本技術・家庭科研究会主催の「平成23年度第12回全国中学生創造ものづくり教育フェア」で上位10作品に入賞しました。同一校から複数の入賞は、本校（新潟市立小新中学校）が唯一でした。



作品名「アクセサリ-Box」



作品名「自動水やり装置」



永井 歓
(ながい かん)

新潟市出身。中学校技術・家庭科<技術分野>教員として新潟県内の中学校に12年間勤務した後、現職派遣という立場で上越教育大学大学院生活・健康系コース(技術)へ入学。大学院では川崎教授に師事し、電気研究室に所属。電気、計測・制御関連を専攻。現在、新潟市立小新中学校に勤務する。